

# 橋本俊詔「格差社会」

## 第三章 格差が進行する中で いま何が起きているのか

### 1～5要点まとめ

# 1 新しい貧困層の様相

- ・年齢別で見る貧困者

高齢者に続き、若者も高い貧困率になっている

- ・世帯別で見る貧困者

母子家庭 → 母子家庭の半数前後の家計は貧困

高齢者単身 → 子供世帯と離れて生活

妻あるいは夫に先立たれた場合

# 貧困となる要因

- 母子家庭
  - 働く場所がない
  - 子育てと仕事の両立 → ×フルタイム
  - 母子家庭の増加 → 貧困率が高まる
- 高齢単身者
  - 遺族年金またはその有無
  - 家族の変化 → 核家族の増加
- 若年者
  - 長期不況による失業率の増加
  - 失業保険(雇用保険)

## 2 低所得労働者が意味するもの

- ・低すぎる日本の最低賃金

- －OECD諸国との比較(9カ国中)

- 日本の最低賃金 下から3番目

- 平均賃金に対する最低賃金 最下位

- 最低賃金以下にいる労働者の比率 下から2番目

- ・低所得労働者とは

- 正規労働者よりは非正規労働者

- (特に女性や若者)

- 低所得労働者が女性と若者に多い理由

- ①女性の平均賃金が男性の平均賃金より低い

- ②パートタイマーの平均賃金はフルタイマーの平均賃金よりかなり低い

- ③年功序列賃金が一般的だったことで、若者の賃金が低く抑えられる傾向にあった

# 3 富裕層の変容

- 「儲かる」産業の変遷

- ① 富裕層となる経営者が従事する産業の変化

- 高度成長期から現在にかけてサービス産業化へ

- ② 経営者の変化

- ・サラリーマン経営者      ・創業経営者

- ③ 企業の規模の変化

## 高所得経営者の変容が意味すること

- 創業経営者の登場

  - 一般労働者と経営者の賃金の格差の拡大

- 初めから起業家を目指す若者の増加

  - 失敗する確率が高い

- 労働者としての経験不足

  - 会社の利益を優先し、労働者の気持ちを考えずに社員を配慮することができない

## 4 地域格差の実態

- 中央と地方、都市と田舎で大きな経済格差が存在
  - 1975年と2000年の失業率が、相対的な地域間の格差ということで見ると、それほど様相を変えていない
  - 絶対的な失業率の高さで見ると、地方の失業率は増加
    - 地域格差の深刻化



- 地域格差が深刻化する理由
  - 構造改革による公共事業の削減
  - 商業分野における規制緩和

問題点：地方が衰退したことに、政府が何ら有効な策を  
採っていない

# 5 奪われる機会の平等

機会の平等・不平等：教育、就職、昇進のそれぞれの段階において  
平等に機会が与えられているかどうか

- ・全員参加の原則
- ・非差別の原則

教育について

—親の所得によって本人が望む教育を受けられるかどうか  
決定されてしまう

—政府の教育への公的支出の削減

→日本の教育費支出がGDPに占める比率は先進国の中でも最低水準

## ・就職

社会移動：子供が親の階層より上の階層に行ったのか  
あるいは下の階層に行ったのか

90年代前半→社会移動が高く、親の職とは無関係に  
自分の望む職に就ける可能性が高い

現代 →社会移動の程度が低く親の職が子の職業  
水準を決定する割合が高い

インセンティブ・デバインド

意欲、希望を持つ層と持てない層にかい離する状況

## ▪ 昇進

### 一般職と総合職

企業は男性を総合職として雇い、女性を一般職として雇うのが一般的だった

→キャリア志望の女性には不利

### 「統計的差別」

女性に対する昇進における差別

かつて女性は離職率が高かった

離職すると推測し、昇進や職業訓練の機会を与えなかった

### 「積極的差別削減政策」

割当制を設けて強制的に昇進や採用を女性に有利に働く

ようにする政策